

平成29年度が始まりました。昨年度に引き続き、日頃の「雑感」を綴ってまいります。
ご笑覧いただけましたら幸いです。

All for one, and one for all. No.136

H30. 3. 1 「第2回卒業証書授与式」

やや肌寒い気温ではありましたが、雲の切れ間に陽光が覗く卒業式日和。予定どおり「北海道旭川永嶺高等学校 第2回卒業証書授与式」を挙行し、多数の関係各位並びに保護者の皆様のご来校と心温まる祝福の言をいただきました。



旧旭川凌雲高校の最後の入学生である155名が、大きく成長し、この学舎から羽ばたいていきました。寂しい思いと今後の活躍を期待する思いが錯綜します。

卒業生が2年生に上がる時に再編統合があり、校名、校訓、校歌、制服までもが一新されました。そんな不安や戸惑いの中にありながらも、卒業生は旭川凌雲の良き伝統と校風を引き継ぎながらも、進取の気概を持ち、仲間とともに旭川永嶺の創造に力を尽くしてくれました。



P T A会長の堀江 裕樹様からお祝いと激励の言葉をいただき、卒業記念品の目録が手渡されました。現生徒会長である関根 唯さんの送辞と、前生徒会長である堀江 月さんの答辞には、先輩と後輩の固い絆が幾重にも織り込まれ、心に強く響くものでした。

また締めくくりとなる卒業セレモニーでは、卒業生による凌雲高校校歌の合唱に加え、高校生活の懐かしい映像が次々に映し出され、入学当時をも想起させる感動的なものとなりました。

卒業生一人一人が逞しく歩み続け、輝かしい未来の創造者になることを心から願っています。



All for one, and one for all. No.137

H30. 3. 9 「救急救命講習」



毎年1年次全生徒を対象に「救急救命講習」を実施しています。お忙しい中、旭川消防局の皆様にご来校いただき、前半を「救急救命に関わる知識と理解を目的とした講義」、後半を「A E Dを使った実技」に分け、どんな状況でも冷静に対応できる知識と技術を身につけます。

近くで緊急を要する人を見つけた場合の救急救命は、私たち皆の義務であります。適切な対応が人の命を救うことになることを認識し、いついかなる時にも慌てることのないよう、この機会にしっかりと学んで欲しいと思います。

旭川消防局の皆様、いつも有り難うございます。



H30. 3.12 「国際交流事業報告会」

「国際バーサロペット青少年交流事業」でスウェーデン研修に、「ボルネオ・スタディーツアー」でボルネオ研修に参加した2年次生 尾中 航太君が、研修内容を詳細にまとめ、スライドを交えながらの丁寧な報告をしてくれました。



両研修の目的や趣旨は異なりますが、その中で多くのことを学び、多くのことを考え、多くの人たちと出会い、多くの仲間と語り合った有意義な時間であったことを実感できる、本当に素晴らしい報告でした。

また写真からは、現地の風物や文化の違い、動植物の命の重さなども伝わってきて、聞いていた生徒にとって大きな刺激になったことと思います。

後半は、ご多忙の中、旭川市地域振興部都市交流課の 岡田 健太郎 様と村田 友也 様にご来校いただき、中国ハルビンと韓国水原市との国際交流についてご説明をいただきました。スライドやご説明から、国際交流に参加した生徒たちが国際感覚を身につけ大きく成長していく様子がよくわかりました。

旭川永嶺では、「国際理解・国際交流・国際貢献」を特色に掲げています。国際的な視野を持ち、社会に有為な人材の育成は学校教育目標の一つでもあります。

今後も留学や短期研修への参加促進に係る取組をしていきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

H30. 3.15 「保健講演会（1年次生）」

1年次生を対象に「保健講演会」を実施しました。この講演は「人間関係の大切さやあり方を学ぶこと」を目的に例年行っています。高校時代により良い人間関係、コミュニケーションスキルを身につけておくことは、これから社会に出て行く若者にとっては本当に必要なことです。



講師に臨床心理士で本校のスクールカウンセラーでもいらっしゃる 松田 剛 氏をお招きし、様々な体験活動を通して、より良い人間関係の作り方について学びました。

同じ年次とは言え、全く話したこともない人が沢山います。しかし、いくつかの体験を一緒に行っているうちに、次第に笑顔が増え、笑い声が体育館に響き渡ります。知らず知らずのうちに相手の気持ちがわかるようになり、同時に自分の思いも伝えたくなります。自然に心が打ち解け合い、そこに新たな人間関係が生まれます。

ほんの少し、ほんの一步、勇気をもって踏み出せば、私たちは沢山の友人を得ることができます。人との出会いは「新しい世界」を届けてくれます。「新しい夢」を見せてくれます。「新しい知識」を伝えてくれます。高校時代に、是非多くの友を作ってください。



H30. 3.15 「先輩と語る会」

1・2年次生を対象に「先輩と語る会」を実施しました。今春卒業した皆さんに、受験勉強の取り組み方や部活動の上手な両立法について経験談を語ってもらいました。

国公立大、私立大、看護学校、専門学校、公務員、民間企業と様々な道に進んだ40名程の先輩方に来校してもらい、豊かな経験を話してもらいました。

自分の進路を決めることは人生の一大事です。誰もがその職業を通して社会に貢献する有為な人材となっていくます。どこかで真剣に考えなければなりません。しかし、たとえ進路が決まっても希望だけでは夢は叶いません。そこには「努力」が必要です。



先輩方の話は、経験者だけに本当に説得力がありました。決して楽な道のりではないことがわかったと思います。見えないところで大変な努力をしていたのですね。それだけに夢が叶った時の達成感と喜びは一際大きかったと先輩方は話していました。

目の前の時間は、今この時も進み続けています。「まだまだ先」と思っているうちに夢は夢のままで終わってしまいます。それを現実にするためにも「日々の授業」を大切にし、



「家庭学習の習慣化」を図ってください。

後半は、計画の立て方や今すぐに実践しなければならないことを具体的に聞くため、進路別に分かれ、「座談会形式での質疑応答」の時間を取りました。同じ学舎の先輩ならではの学習テクニックをたくさん聞くことができました。1・2年次の皆さん、頑張りましょう！

*エイリョウ・アラカルト 「クライミングユース選手権、全国大会へ！」

2年次生 宮崎 法瑠 君が千葉県で行われるスポーツクライミングの全国大会「日本ユース選手権リード競技大会」に出場します。道北地区からの出場は宮崎君ただ一人で、学校としても大きな期待を寄せています。

「スポーツクライミング」は壁に取り付けた突起物「ホールド」に手足を掛けて登る競技です。高校にはまだ施設がないため、家庭でのトレーニングと週2回ほど通う美唄センターのクライミング施設で着実に力をつけてきました。

その努力が報われ、今年の道予選会では見事総合1位に輝き、今回の全国大会出場の切符を手に入れました。

出発前に少し時間をもらい、校長室で直に話を聞くことができました。「リード」を始めたきっかけは、小学校時代のアウトドアスポーツの記憶だそうです。その後、旭川にも専門のジムがオープンし、すっかりその面白さの虜になったとのことでした。宮崎君の説明はとても明快でわかりやすく、リードの楽しさが本当によく伝わってきました。

技術と体力を伴うスポーツだけに、怪我には十分注意され万全な体調管理のもとで最高のパフォーマンスを発揮してくれることを願っています。

H30. 3. 20 「2年次生保護者を対象に進学説明会を開催」

2年次生保護者を対象に4年制大学を中心とした「進学説明会」を開催し、70名以上の保護者の皆様にご来校くださいました。

この時期は最高年次になるに当たり、進路目標を確定していかなければなりません。生徒には既に集会等で繰り返し説明をしていますが、保護者の皆様にも情報を共有していただきたく、このようなガイダンスを設けています。

「過去の進路実績」「進学別の割合」「入試日程」「センター試験手続き」「推薦基準」など、入試に係る様々な情報についてレジュメとともにご説明をさせていただきました。3年次とは言え、入試までは推薦やAOも含めると7、8ヶ月程度しかありません。さらに前半は部活動もあります。



この年度末、年度始めの過ごし方がいかに大切かをご理解いただけたものと考えています。

進学は、将来を決める大切な分岐点です。「何をやりたいのか」「何を学びたいのか」「何を身につけたいのか」「目標実現のためにどの道に進めばよいのか」などを真剣に考えなければなりません。

当人と保護者には進学情報を共有した上で十分な話し合いをしていただきたいと考えています。保護者向けガイダンスは今後も予定していますので、是非多くの保護者の皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

*エイリョウ・アラカルト 「旭川市・水原市青少年交流事業」

本校で推進している国際交流事業の一環として、今年度も1年次生の 谷村 礼菜さんと遊佐 七海さんの2名が、3月24日に韓国水原（スウォン）市の短期研修へと出発します。この事業は旭川市地域振興部都市交流課が主催し行っているもので、市内の高校生と韓国の高校生が文化交流を行い、理解を深め合う中で「グローバル的な視野」を持つことを目的としています。



お昼休みに両名が校長室に来てくれ、今回の研修日程と抱負を語ってくれました。初日と最終日は移動日になるので、滞在期間は3日間とのことです。滞在1日目はソウル市内を自由探索（羨ましい!）、2日目は市長のもとに表敬訪問、そして韓国の高校生との文化交流（楽しそう!）、最終日は歴史探索でメインは何と「トイレ博物館」だそうです。（?）これがまた、向こうの方のお薦め場所とのこと。

お二人はとても明るく、話をしていて清々しい気持ちになるほど、しっかりしています。研修中は健康に留意され、この4泊5日の研修を未来に繋がる有意義な時間にして欲しいと思います。「元気に行ってらっしゃい!たくさんの報告を楽しみにしています。」

H30. 3.23 「終了式・離任式」

終了式にあたり、在校生には「あえて困難に立ち向かう環境を作りなさい」と話しました。人生は困難の連続です。どんなに失敗を繰り返しても「次こそは」という気持ちを忘れないで欲しいと思うからです。

この休みを活用し、自分としっかり向き合い、自身の目標に向かって力強く歩み始めてくれることを期待したいです。

休み明け、1つ上の年次になる生徒諸君が、今日よりも確実に成長してくれていることを確信しています。



離任式では、三名の先生とのお別れがありました。新たな高校へ異動される方、教職の道を離れ次の人生を歩まれる方、研鑽のために大学院に向かわれる方と、歩む道は異なりますが、どうかこの永嶺高校での思い出を忘れることなく、いつまでも御健勝で御活躍されますことを心より御祈念申し上げます。

← 生徒会執行部から「別れの挨拶と花束」が贈られました。

*エイリョウ・アラカルト「スケッチ」

校内を歩いていると様々な光景に出会います。在校生にとって春休みとは言え、多くの生徒が学校に来ています。

休みを無駄に過ごさないよう、「朝早くから登校し自習室で勉強に励む生徒」、「部活動で熱心に練習に取り組む生徒（皆、大きな声で挨拶をしてくれるので本当に気持ちがいいです！）」、「新年度を迎えるにあたって身の整理整頓に努める生徒」など、それぞれに成長を感じさせる姿を頼もしく思います。

ふと目を転じると、階段の壁面に芸術科目で美術を専攻している生徒の「スケッチ」を見つけました。美術担当の先生が授業作品を機会あるごとに展示してくれ、私たちの目を楽しませてくれます。

作品をじっと見てみると、驚くほどのリアリティーに驚かされます。細部に至るまで忠実に描写され、陰影からは程よい質感を感じさせる秀作揃いです。工夫ある授業によって生徒の才能が開花し、潜在的な力がこのように表出されていくことは素晴らしいことです。

永嶺高校には、生徒一人一人の潜在能力や個性を引き出す場面が沢山あります！



***エイリョウ・アラカルト 「東日本大震災へ義援金」**

震災があった2011年から早8年が過ぎました。しかし、当時の心の痛みは今もなお癒えることはありませんし、被災された方々の苦悩を思うといたたまれません。それでも皆が復興への努力を惜しまず、新しい未来の創造に向けて精一杯頑張っています。

私たちに応援できることは微々たるものかもしれませんが、生徒たちの思いが自主的な行動としてずっと引き継がれていることに誇りを感じます。スーパーでの募金活動、学校祭模擬店の売上金寄付など、生徒たちが自ら考え、皆で話し合っているこの行為に、人としての大切な心が宿っているように思います。

2年次生の**大野 皓平**君が生徒を代表し、義援金を日本赤十字社に届けてくれました。生徒たちの「一日も早く復興して欲しい」という願いが被災者の皆様に伝わってくれるといいですね。



***エイリョウ・アラカルト 「打楽器アンサンブル、全国最優秀賞！」**

またまた嬉しいニュースが飛び込んできました。27日に神奈川県で行われた「ジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会」で、本校が2年連続の「最優秀賞」に輝きました。今年度は全国から代表16校が参加、そのうち上位5校しか選ばれない「最優秀賞」の栄冠を手にしたので、本当に素晴らしいです。



お昼過ぎ、参加した面々が校長室に来てくれ、大会の様子を話してくれました。打楽器には多くの種類があり会場に運ぶことは叶わず、現地での借用だったそうです（借用に協力してくれた方は何と旧凌雲高校時代のOBとのこと。ご協力に心から感謝いたします！）

普段使い慣れた楽器ではなくアクシデントもあったそうですが、本番ではその壁を見事に乗り越えてくれました。

アンサンブルの人数形態は様々だそうですが、パートリーダーの2年次生 **山地 未桜**さんは「今回の8名での演奏は、互いに刺激し合い切磋琢磨できる関係としては、この時期における最適の人数」と説明してくれました。

帰り際に、お洒落なチョコレートをお土産にいただきました。私の微笑む表情を自分のカメラで撮ることはできませんので、キリンに代役をお願いしました。「ご馳走様でした！」

翌日からは札幌での「スプリングコンサート」に参加とのこと。次年度も吹奏楽局の活躍から目が離せませんね。

